

姫路科学館自然系ジュニア学芸員講座 2024 の活動について

藪中絢音・伊藤駿・守丘涼真・藪中音羽・山本梓穂・浅妻正希・
下森一・藤尾結子・矢部真帆・北野実花・渡邊皓介・宗友博杜・
左尾風登・青田准樹・田所蒼介・西脇大晴（姫路科学館ジュニア学芸員講座）・
吉田航希・松本万尋・宮下直也（姫路科学館）

自然系ジュニア学芸員講座とは

姫路科学館自然系ジュニア学芸員講座とは、学芸員の仕事や自然環境調査の体験を通じて、分からないことを調べる力や分かったことを伝える力など、色々なことに役立つ力を身につけることを目的とした講座である。小学5年生から高校2年生までを対象として15名程度の講座生を募集し、4月から翌年2月までの1年間、12回程度の活動を実施している。応募時には作文を課し、定員超過時には作文選考によって講座生を決定する。

講座生の特徴と参加動機

昆虫、ほ乳類、鳥類、植物、岩石など自然に関することが好きな講座生が集まっている。講座生は昆虫に詳しくなること、生き物の体の構造を知ること、学芸員の仕事を体験することなどを目標として講座に参加している。

2024 年度の活動について

2024年度は16人の受講生で12回の活動に取り組んだ（表1）。

第1回（2024年4月21日）は、収蔵庫を見学し、動植物の標本を見て管理の方法を学んだ（図1a）。また、昆虫の企画展「むし・ムシ大集合～超スゴイ！蝶の世界～」の準備をした。

第2回（5月12日）は、姫路科学館周辺で昆虫採集をし、昆虫の企画展で展示するための標本を製作した（図1b）。

第3回（6月2日）は、姫路科学館の周りのため池、ビオトープ、水路でプランクトンを採集し、顕微鏡で観察した（図1c）。

第4回（7月15日）は、「科学の屋台村」でブースを出展するために、標本を観察しながら昆虫と鳥のぬり絵とはり絵の図案を制作した（図1d）。

第5回と第6回（7月20日、21日）は、姫路科学館のイベント「科学の屋台村」で「いきものぬりえ・はりえ」と「プラバンキーホルダーを作ろう」のブースを出展した。「いきものぬりえ・はりえ」では、お客さんに図案を選んでもらい、標本を見ながらぬり絵とはり絵をしてもらった（図1e）。また、今後の活動に向け、ほ乳類調査のためのトレイルカメラを姫路科学館周辺に設置した。

第7回（9月2日）は、物を切ると何が分かるかを学び、岩石を切断して断面を観察した（図1f）。

第8回（9月29日）は、姫路科学館第2収蔵室の鳥類標本について、どの棚にどの種類がどれだけ入っているかを調べ、整理した（図1g）。

第9回（10月27日）は、植物や絶滅危惧種について学んだあと、姫路市南東部にある御旅山に登り、植生や見つけた植物の観察をした（図1h）。

第10回（12月15日）は、第5回で設置したトレイルカメラに写ったほ乳類の種類、頭数を入力して整理した（図1i）。

第11回（2025年1月12日）は、第10回で整理したデータをもとに「トレイルカメラは見た！～姫路科学館周辺のほ乳類～」の展示を作成した（図1j）。

第12回（2月9日）は、姫路科学館のイベント「自然のおはなし会」で1年間の活動について発表した。

表1 各回の実施内容

回	日	各回の主な活動内容
1	4/21	学芸員の仕事について学ぶ
2	5/12	昆虫標本づくり
3	6/2	プランクトン調査
4	7/15	「科学の屋台村」の準備
5	7/20	「科学の屋台村」1日目
6	7/21	「科学の屋台村」2日目
7	9/1	岩石を切って観察する
8	9/29	鳥類標本の整理
9	10/27	御旅山の植物観察
10	12/10	トレイルカメラのデータ整理
11	1/12	野生生物の展示作成
12	2/9	自然のおはなし会



図1 活動の記録写真

(a) 第1回 (b) 第2回 (c) 第3回 (d) 第4回 (e) 第5・6回
(f) 第7回 (g) 第8回 (h) 第9回 (i) 第10回 (j) 第11回